

御氣色美はしく御散策あらせ給ふ

●北京の獨人憤慨す

去月未獨逸俘虜が福岡收容所
 より逃走を企てたるに
 對し當地在留の地位ある獨人等は
 此獨逸軍人の面目を毀損するもの
 として悲歎に沈み居るさま目を
 縛されしモツデーの子を
 の如きは三人の子を
 へて悲歎に沈み居るさま目を
 として悲歎に沈み居るさま目を

警察から来たから戸を開けろ！

釜山の拳銃強盜詳報 大膽なるアービン

一日午前零時十分頃釜山草梁洞鮮人
資産家盧濁模の方の表門を開き釜山警
察署より取調へる爲め出張したるを
以て錠を開けよと呼ぶ者ありしが

▲深夜の事なれば 家中の
者は何れも寢違せずありしが再三再
四警察署より用向きありて来りたる
旨述べたるより主人盧濁模は下男金
用伊と共に門を開くと同時に覆

面したる三名の朝鮮人押し
り一名は拳銃を他は小刀を突き付
門を鎖して内房へ闖入し主人及び
盧正平と養女金彩鳳(こようふう)と下女小
及び下男等に布巾を被せ首を出す
撃ち殺すぞと脅し主人の妻朴希雲
名のみを引き起し

▲金を出せと迫りたる
折りから今夜は特合せなしと云ふ



死體解剖

▲土塙を乗越にて 逃走の
際二發銃を發射し其の飛速走せり
急報に接し釜山警察署にては直ちに
非常線を張り 極力犯人の搜
くも、夜、釜山、道、元州、縣、柳林、村、竊に、新穀、中の、
業、農、校、職、員、官、舎、の、土、工、を、請、負、ひ、
鮮、人、某、の、其、の、雇、傭、人、と、の、間、に、二、十、

検事局の要求


死刑宣告

醫師アービン方 を襲ひ
 たる敵に於て同夜アービン方にしては
 戦費後家族打寄りて 敵軍にたりしが
 突然ビートル及び短刀を携へたる三
 名の敵室内に進入し金を強奪せしむ

十月六日拂曉金山本町一丁目一
 番地雑貨店海印知地野人方へ忍び入
 り町人に重傷を負せし同人変するを機
 に此に追ひつゝ、追ひつゝ、追ひつゝ、

強盗温控訴す

汽船衝突


貧民席焼
 ひんみんせきやう
 日本郵船會社の汽船近江丸（三千
 百八十四噸二四）は、英種其他
 物を合せ二千二百五十七噸を積載
 て廿九日午後八時三十分上海より


貧民窟

于駄ヶ谷の大火

三十日午前三時分、東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷町四百四十番地、荒物屋草間金次郎氏基手の物置より出火。火は折柄の西北風に煽られ、忽ち附近に延焼し、同町四百五十三番地までを鳥居に達し、全焼百七十戸。半焼名ありしは何れも無事にて船中

可成に煙火をなせしやありし。流の爲め船體漂流され、同所に碇の同會社、船主佐八の船首に接し、近江丸は左舷中央部に長さ一丈二尺六寸深一尺五寸位の窪所を生じ、同船には船員七十七名乗船中

霜水雪


世人轉り

仁川觀瀾所に達したる最近各地
 霜雪を聞くに初霜濟州十一月二
 一日初氷咸陽十一月十五日海南
 二十一日順天同上昨年より十三
 日釜山同月廿九日昨年より十八日
 雪山同上初雪咸陽十一月十八日海
 南同上昨年より三日早し釜山同
 日にて昨年より三日早し

名古屋在の椿事
 尾張知多郡野間村字上町間大椿高次
 (こ)は酒癖甚しき男なりが二十八日
 村では奉納の老翁を催し提燈行列を
 なしたるに司町御役事等呑みたる

(こ)と云ふ前科三犯の男なりと(京)

人力の怪賊と

格闘捕縛す

制服帽及び帶鈕

奪うばひつ之のれを著し用し慶けい尙しやう南なん道だう谷こ
 巡めぐ査さ捕となりと詐しや稱しやうして荒あし廻めぐり
 不ふ敵てきの盜たう賊そく原げん籍しやく住す所しよ不ふ詳しやう通つう稱しやう安あん
 又または善ぜん明めい事じ安あん範はん進しんは十じゅう一いち月げつ初はつめ

州警察署にては直ちに巡查十數
急派し安が宿泊中の旅宿を圍む

右處安は最早逃れぬ所と覺悟した
りん突然旅宿の便所
中より躍り出で向ひ来る者

を一發打ち掛けしより安は驚き憤
し抵抗を止め縛に就きたりと

北京牌樓の改修
北京の各牌樓は亦た改修せられ五巴の顔色を以て通行の

此れあり之れ帝政の障礙たるは勿論な

●**蹄鐵用の釘箱を窃取す**
習志野火藥庫の

二十四日午後七時頃千葉縣習志野火藥庫の裏門右側の土場

が火薬を盗つて共和黨の更なる之を造り命を迎へんとす疑はれ其處より火薬を盗り

(北條 謙三)

部虎吉(三)とのみで口を噤んで

本日より大正館
最後之謝
伊達政宗

新派劇 新橋情話

に取調べし結果此奴は普通の竈
人なる事判明するに至れり即ち
は以前三河島村一四六三に居住
たる當時同聯隊に騎兵一等卒と

入りて倉庫内の踊鐵用針五千個
三箱を窃取し津田沼町の踊鐵業

（い）えいせいくわつ

前日の早五時隊は第卅五聯隊の大隊が居る、今日は歸休兵が皆

て丁巳の秋、現に家督を継いで、共、月の中旬には又初年兵になるので古参兵は昨今眼を廻して何分軍隊生活に就て

● 小供同様の初年兵
には入籍して先づ飯の喰べ方、

國萬國無比の精銳に
日本軍隊に仕立てるには其の

なからぬ教育者の苦心が要る。育には射撃銃劍術等の専門教育より兵士の内務教育といふ事重く視られて居る。内務教育其の中隊に於て行はれて居るでは中隊を以て一家め中隊長が親父小隊長下士が親類親類が番頭となつてそれらに立派な軍人を養成しつゝゐる。

せりの教育を施し、いざ鎌倉の

なうと勵むのである、全く重
活ほど規律正しく禮儀厚く友
氣持のよいものは無い、殊に
其の襟章の色の象徴の如く

を擧げて 大元帥陛下の爲め
線に進んで死なうといふので

射距離半里に達

る三八式銃は伊達には持た
も日本陸軍の銃劍の前
鬼神に雖ども突き
て突れるの氣概である、

圖掩堡を築く橋を

ける、現今の歩兵は王兵に等
事もやつてゐる、龍山の歩兵
月一日からは毎七時報
十五分間に洗滌し了り、野
朝朝飯半まで演習にぞりか

ところ自慢

何かしら誇る特徴を有つてゐる自慢は、無邪氣な
驕の略語でも、町内の自慢
かまひません。また、地本
ら、その村、町の誇を語
差支ありません。成る可
に即した寄書を廣く歡迎
す。


寄書は宛先にて「佐賀県立佐賀高等学校」

辱 皇后陛下 御嘉納
 各宮殿下
 國民新聞社編 定價五十錢郵稅八錢本埠

理想の家庭

一容一
 ●理想的家庭 徳富猪一郎氏「教育」下野吹子女士史「結婚」鳩山春子女士史「育児」瀨川昌吾博士「衛生」吉岡彌生女士史「交際」山脇房女士史「住宅」伊東忠太博士「中流の納戸」と裁縫部屋 羽仁もと子女士史「室内の裝飾」井上秀子女士史「庭園」長岡安平氏「園藝」鈴木武太郎氏「臺所」澤博士夫人「家庭料理」赤堀峰吉氏「家庭經濟」高橋孝子女士史「衣服」瀧越千代子女士史「洗濯」宮川壽美子女士史「下婢の便方」加藤博士夫人「家庭の娛樂」巖谷小波氏
 本社に現代斯道専門の諸先生が我國家庭の改良向上を圖らるゝ爲に住宅の建築構造より家庭に必要な百般の事項を細々漏さず叮嚀親切に講述執筆せられたものであります。加之前記各題目の後には家庭便覽として家政上最も大切な種々の心得を記載し、尙諸先生考案の鮮明なる寫眞版を挿入してあります。主婦計りてなく家政研究中の女學生諸嬢の是非共一冊を左右にせらるべき最新刊の良書でございます。

大取次所 京城太平通一丁目 京城日報社代理部
 振替京城三〇〇番
眼科 小兒科 京城黄金町三丁目赤田通電話二四四三番
本院 田醫院
 入院隨意 院長 本田建 泰

醇良 清酒

 仁川本町三丁目
増本酒店
 電話一〇九五
 振替京城六一九番

三和 高麗燒 宮内省御用の光榮に浴したり
 香風 花瓶・香盒・茶器・菓子器其他種々
三和 高麗燒 朝鮮特産海老の精
 海老の精は風味佳良。滋養分豊富にして貯蔵しきに耐へ御土産として絶好の珍品に御座候
 三和 高麗燒 元
 海老の精 賣元
朝鮮 鎮南浦
富田商會

特約店 仁川 京城 大津 津島 尾川村 支店 會屋 江津 大邱 青島 木屋 商支店 店店
 資本金五拾七萬五千圓(全部拂込済)
 諸積立金廿二萬五千貳百圓
 京城南大門通一丁目
 株式會社 **朝鮮商業銀行**
 一般銀行業
 倉庫業
 銀行長 趙田鎮泰
 支配人 豐田明敬
 電話五五八番 六八八番
 振替京城一六三四番
 南大門支店 電話八四九番 仁川支店
 本町支店 電話一六〇六番 平澤支店

本店は平北寧邊^{へいきたねいへん}其の工務部は
平壤櫻町^{へいじやうさくらまち}遂安組運輸部^{すいあんぐんゆんぶ}の經營^{けいえい}

は 含 け 配 於 相 司 縣 買

案橋梁暗渠護岸岩石切
取り工事等約十萬圓で現
在工事中のもの亦三萬圓以上もある
而しか氏は尙ほこれのみに満足せず
益々奮闘努力遂に安金輸入夫の供給鐵
木の納入等有ゆる方面に向つて出来
得る限りの勉強をなし一手に集中し
一面益隆運に向ひつゝあ
る會社の利益を幾分に
は上谷藏藏氏本主主任山田和恵治氏
の轉送も廉價に行ひ地方の利益を圖
らん計畫である尙ほ遠安組の代表者
云ひ並に沿道に仕向けらるる商品
の轉送も廉價に行ひ地方の利益を圖
らん計畫である尙ほ遠安組の代表者

事間の運輸動向は四區に分れ一動は
樺葉里二區は粟里津原三區は津原
東頭四區は東頭國中和谷各三半
で中和栗里に倉庫を置き何れ遠か
らす每區を五噸積の自
動車二臺で輸送しようこ

秋葉き卅七年の十一月であつた。るに某氏の事業は上谷氏等が

▲粉骨碎身して奮闘した用

もなく多大の損失を招き翌年五十年閉店の止むを得るに至つたのである。と同時に安曇縣の氏の府へ令弟と店員に打任せたる處現其の交通通信機關は不便だし何等醫術も出来なだかられ亦附悲運に際會し氏は結腸癌に罹りしも勇を披して平康に來り翌年軍隊の用達をやつたが面白

い、茲に於て氏は三十九年五十二年田舎生活の思ひ立ち頃觀察道の所在地たし平北寧邊に移り藥種經營を初めた案邊移住以來の上谷氏の事業の経緯を述べたから漸次

なす事は既に風情の變種となつた亦傍ら雄貨の即販賣から度々器の販賣をなし苟しくも地方のなる事は關係せざる事なき迄手

此程設立せられたる逓安組は上谷
會工務部及び鎮南浦中村組の共同

時き金布の可なり騰貴す
米價の暴落よりお餅は遂に騰貴
して急激なる高價の立直しを見
ゆるに、落しに糸布類類類類類
用、備し、の如き此節日來の、
一圓大、四圓十錢、に半
日、然かも先計の發賣相場、
に對照し、人衆の走りにある
とて、一般上座にあるが如く、更
に、
晒金巾に本品五
五分高、
錢以上の騰貴、
結果は低廉なる利銀、
の出口に増加、
一、二、三、

明治三十七年二月の初であつた。その當時朝鮮に手を延ばしてゐた。

[illegible]

東京株式特電

京公債通取引
 前日の比
 九二・〇

東京期米特電
 期一
 五五・一
 五五・二
 五五・三
 五五・四
 五五・五
 五五・六
 五五・七
 五五・八
 五五・九
 五五・〇

深川在米特電
 期一
 五五・一
 五五・二
 五五・三
 五五・四
 五五・五
 五五・六
 五五・七
 五五・八
 五五・九
 五五・〇

大阪三品特電
 期一
 五五・一
 五五・二
 五五・三
 五五・四
 五五・五
 五五・六
 五五・七
 五五・八
 五五・九
 五五・〇

大阪期米特電
 期一
 五五・一
 五五・二
 五五・三
 五五・四
 五五・五
 五五・六
 五五・七
 五五・八
 五五・九
 五五・〇

下關期米特電
 期一
 五五・一
 五五・二
 五五・三
 五五・四
 五五・五
 五五・六
 五五・七
 五五・八
 五五・九
 五五・〇

朝鮮物產特電
 期一
 五五・一
 五五・二
 五五・三
 五五・四
 五五・五
 五五・六
 五五・七
 五五・八
 五五・九
 五五・〇

雜報
 期一
 五五・一
 五五・二
 五五・三
 五五・四
 五五・五
 五五・六
 五五・七
 五五・八
 五五・九
 五五・〇

と小麥は各社の買物を入れて愈々
 盛く殊に米價の奔騰に一層の勢を
 爲め

先物困惑は頗

[illegible]

晒金巾は本品二
五分高を銀に當地
も既に一反五

[illegible]

面の騰貴価格を合すれば丸銀用
分板は約十五厘高更に四八肉に

[illegible]

分り切りたる事なりしが當初手続
は尚持 一掃覺束
品ありて朝來人氣はザリや不覺

接しなるは十八錢の押

見の買物多く引取
引續て十一錢と押し三錢と

顧客各位正座神所
仁川米店取引所
サンピン仲買
電話五二〇

▲三日前場 中限(下)八時
面値(六)四銭五分 ▲六日五時八分

厘唱へとなれり在來種二錢八

[illegible]

電話 一五二六

[illegible]

るを
北朝
に接
て朝
品十
修正を加へられたるが其外
案通りとして二十七日夕陽
に接したり該修正の要項は
朝鮮米を未定格として其

大見人
次郎
三六八
ハチイ

品買
事買
見と聞
る内
らん
せんか
米さ
て

送の格下
しで當
三十二
六十
より一
十八
なるな
内

眼科
酒精直
一手發

銚子港

寄米
申十
返し
至れりと

れた次第にして取引所は
即ち二月限より此格付を實

限
 所
 二四七三三
 錢錢錢錢錢
 是十錢錢錢
 石
 院病化贊
 月三即本城莫
 代理

五	八	六
安	安	安

支店
當銀行は改

吉行實地

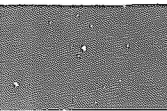
[illegible]

<p>アルコール</p> <p>常用品、膏等品、各種新荷著精々勉強 川宮町(振替口座京城六八番)</p> <p>鬼頭兼次郎商店</p> <p>院長 金井豐七</p>	<p>田中玄蕃醸造</p> <p>京師本町六丁目(元軍司合部通)</p> <p>金井眼科醫院</p> <p>院長 金井豐七</p>	<p>入院隨意 普通病室並隔離病室</p> <p>院長 醫學博士 古城憲治</p> <p>尿、便、血液、咯痰等臨牀的検査の依頼に應ず(毎日五名を限り無料施療す)</p> <p>京師明治町一丁目</p> <p>山邑京城支店</p> <p>電話 八四九番 振替貯金京城七五番</p>	<p>漢湖農工銀行</p> <p>京城南大門通り二丁目</p> <p>電話 四五二四番 四五二五番 四五二六番</p> <p>支行長 遠山完照</p> <p>支配人 白丸</p> <p>銀行高 百參拾萬圓</p> <p>下金 三十一萬九千一百圓</p> <p>壹百萬圓</p>	<p>中島醫院</p> <p>京師明治町(元產婆學校隣)</p> <p>院長 中島貞信</p> <p>電話 三七七八番</p>	<p>大塚釀造所吟製</p> <p>京師本町四丁目</p> <p>前田酒店</p> <p>電話 一三七番 振替口座四二五</p>	<p>小兒病內科醫院</p> <p>池田季雄</p> <p>電話 自宅 一三四番 一八八〇番</p>
--	---	--	---	--	---	---

三 日 朝 刊
(號一十六百九千二第)

も家
する能
元宣

天谷



根氣の世の中 蘆川寛巳 二〇
原始的民族の秘密 藤田七舞郎 二二
基督教十講 三川雄輝 一〇〇
公民教育の理論及實際 水戸之助 二六

木工 上 工 上 卷 通 河 木 工 上 卷 二五
 簡 易 製 鐵 鋼 向 新 書 一三
 鮮 名 勝 詩 選 冷 城 盛 行 一三
 米 糧 經 濟 集 空 加 成 本 四
 店 頭 裝 飾 兩 清 水 正 巴 三
 標 準 考 大 百 科 教 育 會 四
 切 切 圖 樣 考 大 百 科 教 育 會 四

院長醫學博士緒方正清

大坂屋號書店

京阪本町 番號二〇八 電話東京部五七三

電話本局 一九八五番

內務部
附定緒方助產婦教育所
產婆生徒
本科每其十月
別科隨時入學

式並心得

もの及不動産登記法に
等併て百貳拾餘件並に
の證明申請（京城府所
目録雛形等）掲て加之
参考と爲るべきものに
し又商業登記の部にほ
に關する申請書式等

へき程度に之を編纂せ
備の参考書なり

日報社代理部

一枚に付一家

一圓三十五錢
一圓十五錢

京東
谷出長
町本城京
三九二座口夢堀
六九三一話覺

八十八號

店

根氣の世の中 蘆川寛巳 二〇
原始的民族の秘密 藤田七舞鶴 二二
基督教十講 蘆川寛巳 一〇〇
公民教育の理論及實際 川本字之助 二六

[illegible]

院長醫學博士緒方正清

大坂屋號書店

京阪本町 番號二〇八 電話四四三・五七三

電話本局 一九八五番

內務部
附定緒方助產婦教育所
產婆生徒
本科每其十月
別科隨時入學

式並心得

もの及不動産登記法に
等併て百貳拾餘件並に
の證明申請（京城府所
目録雛形等）掲て加之
参考と爲るべきものに
し又商業登記の部にほ
に關する申請書式等

へき程度に之を編纂せ
備の参考書なり

日報社代理部

一枚に付一家

一圓三十五錢
一圓十五錢

京東
谷出長
町本城京
三九二座口
六九三一話覺

八十八號

店

須藤南翠作
筒井年峰書

10

討たせては一大事と、佐久間が左右より切つてかゝる。

變を詳論す、薄厚氏姻娶の由來を論じ、藤原不比等の妻にして光明后の母千代、不比等の女にして文武の夫人等、女御の系譜を以て、皇統の尊卑動

全治と奇薬

水王

醇

及救急

乎最速
斯中症
均為按性

良清酒

京成本町二丁目

色白く肌の美人美男子となる。(價目)
 取店 神田和橋松原 一本藥店
 なるゲンシ液

王部
 急法
 借し

京成會館前
 太平堂名刺鋪
 本町三丁目
 明治屋支店

特約販賣店 佐藤牧太郎
 同 本町三丁目
 特約販賣店 明治屋支店

同帽トウバウ
 柔絶ユヅツ
 軟對カンタイ

大崎組商會
大阪市津區安土町四丁目

創業元
大阪華佐町
小西久兵衛

主成分より成れ

◎原料各

販宮

[illegible]